

■□要旨■□

1. 豊岡市の特徴と中貝市長の方針：

700平方kmに人口82,000人、人口は減少しているが、他の地方創生とは異なり、要因そのものに対策を打とうとしている。高齢者の移住よりも、若い世代の人口増を目指す。そのため別の価値を用意し、ローカルを磨き、「小さな世界都市」を目指す。(Local&Global)

2. 豊岡市、一つ目の柱（過去から大切なものを守り、育て、引き継ぐ）：

城崎温泉は、町全体で観光事業を展開している。宿は和風に限定し、宿泊客には積極的に街に出してもらうことや、KDDIと包括契約を結びWifi整備するなど、楽天・三井物産など外部の人材(副市長は公募で元京セラ)を積極的に招聘し、施策を展開。結果、観光客は67万人/年、海外からのお客も増加中(特に欧米豪などの比率が高く、通常は閑散期に、かなり集客できている)

3. 豊岡市、二つ目の柱（芸術・文化の発信）：

歴史のある劇場永楽館を復活させ、歌舞伎を継続的に招聘したり、国際アートセンターを開館し、世界中のアーティストの創作活動をサポートすると同時に、そこで公演を開催。アーティスト達の発信基地となってきた。そのため、エントリーしてきている団体は飛躍的に増えており、日本のアートシーンにインパクトを与えている。基本はお金を取らず、商売ベースにしておらず、豊岡市のブランド価値の向上に主眼を置いている。

4. 豊岡市、三つ目の柱（環境都市「エコバレー」を作る）：

低湿地帯の特性があるが、そこで原生するヤナギゴオリを使って、鞆の産地に。(現在国内Topシェアまで成長) また、農業等で絶滅した「コウノトリ」の復活をめざし、長年かけて、環境改善(河川の自然再生・湿地再生など)を図り、現在では200羽近くまでに復活してきている。環境経済戦略として、環境改善に皆が共鳴し、持続可能を目指し、そして自立して取り組むことで、最終的には利益を生むことを目標に取り組んでいる。(例：コウノトリツーリズムとして、年間30万人の観光客を呼べている)

5. 豊岡市、四つ目の柱（「小さな世界都市」市民を育てる）：

上記のような三つの柱を、市民自身が実践できるようにする。Local&Global施策として、ふるさと教育の実施・英語教育の強化・演劇によるコミュニケーション能力の向上を図る。また専門大学の設置も検討しており、観光とアートを連動することを目標としている。こういった施策により、人々をつなぎ、人々と共感を生む、人々と共に創り上げていく能力を育てることを実施している。

■□今回の学び ひとことという■□

市長というTopの立場から、この市が抱える問題点をちゃんと分析し、そして明確なVisionを持って施策を打っていると思います。また自分達だけでは出来ないことを積極的に外部人材を登用し、実現させており、通常の会社にもあてはまると思います。また施策が市民全体で実施しており、市民自身の存在意義を明確にしていることも、豊岡市が成功しているポイントであると考えます。



■□感想■□中貝市長は、豊岡市民が明るく元気に過ごせる町作りをされていると同時に、経済性を追求されていることをひしひしと感じました。経済性が伴わないと、やはり明るい町づくりができない側面もあるのではと思います。また「コウノトリ」の復活に関しては、反対する人がたくさんいる中でやり遂げられたということで、その信念の強さを感じました。今後の生き方に強いインパクトを与えて頂きました。